

（午後2時35分 再開）

○議長（土井裕美子君）それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

○議長（土井裕美子君）順番12、8番 杉本さん。

〔8番（杉本俊彦君）登壇〕

○8番（杉本俊彦君）それでは、始めます。

1番しかないんですけれども、イベントを企画し市を活性化というタイトルでやります。

もうこれ以上入るすきがないくらい、市にはイベントが多くあります。そこに、もう一度知恵を出してもらい、サマーボールくらい市民に知ってもらえ、参加していただけるイベントを企画したいと思い提案しました。

例えば、1番で市民大運動会、2番、紀の川音楽祭、3番、紀の川オールナイト映画祭、4番、市民大駅伝などなどです。市民を元気づけるような活性化イベントを企画してはどうでしょうか。

子育て支援は市が頑張っていますし、高齢者についても国が手厚くやっております。ともにカバーできないところもありますが、社会人になってから、楽しめるイベントを考えてほしいのです。よろしく願いいたします。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さんの質問、イベントを企画し市を活性化に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）イベントを企画し市を活性化というご質問にお答えしま

す。

本市では、内容や規模の大小はありますが、各部局が年間で300を超えるイベントをそれぞれ目的を持って開催している状況です。

また、教育委員会関連で、現在、開催している主要なスポーツイベントについては、議員ご提案の市民大運動会ではございますが、毎年10月に橋本市民総合体育大会を開催しています。昨年度は、ソフトテニスやソフトボールなど、29種目に約3,000人の方々が参加され、橋本市運動公園テニスコート、和歌山県立橋本体育館などを会場として盛大に開催されました。本年度は、小学生バレーボールの種目を加えた30種目の開催を予定しています。

また、毎年2月11日には橋本マラソン実行委員会主催による橋本マラソンが橋本市運動公園多目的グラウンドを中心に開催されます。本年は、ハーフマラソン、5km、ファミリーなどの種目に1,381人のエントリーをいただきました。当日、会場内では走り方教室やお楽しみ抽選会なども行われ、子どもから大人まで気軽に参加できる催しとなっています。橋本マラソンは本年度第23回目の開催となり、市民の健康増進を図るとともに、スポーツの振興を促進する冬の一大イベントとして定着しています。

このように市としてはさまざまなイベントを実施していますが、一方で、市を活性化するための手段として市内外の人が多く参加するイベントの企画例も挙げる事ができます。

最近の例では、アンブレラスカイというカラフルな傘を通りの上に飾り非日常な空

間を演出するポルトガル発祥のフォトジェニックなイベントが各地で開催されています。

このようなイベント企画は市民の柔軟な発想と行動力、そして何より主体性が必要です。イベントを通じて人・もの・金が活発に動き出し、町を元気にしていく主人公に市民の皆さまがなっていただき、持続的に取り組んでいくことで、まちに対する愛着やプライドが湧いてくるのがまちの活性化の第一歩になるものと考えています。

しかしながら、議員おただしの市民を元気づける新たなイベントをスクラップアンドビルドなしに市が主体的に企画運営するには、人員体制、準備期間、コストなどに照らしても困難であると考えていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さん、再質問ありますか。

8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）今回の一般質問も、前回の大学誘致質問と同様、もしかしたら全否定かと思っていましたが、アンブレラスカイという新たな企画が各地で開催されており、そういった企画を橋本市で取り組めないのかと模索していただいていることにはびっくりしています。

ところで、前回の大学誘致質問の後、何人かの方から「もっとやってほしい」と。市の職員の方からも3人から、「やってくださいよ」という話を聞いておりましたので、またその話は折を見てさせていただきます。

これをまず何とか実現に向けて進めたいと思いますが、この点について、経済推進部長、このアンブレラスカイですけれども、もう少し詳しく説明していただけますか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）アンブレラスカイというのは、傘を使ったアートの企画で、インスタグラム等で傘だけではなくてアート全体のイベント、いわゆる商店街のアーケードに天井に傘をつらしてその中を歩いていていただくとか、公園に傘をかざしているとか、そういった風景を思い浮かべていただければというふうに思います。

されどということなのですが、壇上でも申し上げましたが、こういったイベントというのは、市民の皆さんの柔軟な発想と行動力、主体性が発揮できるようにしなければならないというふうに私たちは考えています。経済推進部において、他地方で行われているそういったイベントの実施母体や設置方法、それから予算等も含め情報収集し、具体的などころで言いますと、紀伊見荘であったり、恋野で行われているあじさいまつり等で、そういったイベントが同時進行としてできないかということも含めて、きっかけをつくるということを模索していきたいというふうに考えています。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）市を活性化するための企画について、もう少し説明をさせていただきます。

市民大運動会というのは、私の提案は、市民全員が楽しんで参加できる運動会として、今やっています市民総体や市民マラソンのようにそれなりの団体に所属していたり、日頃からランニングなどをして鍛えたりしている者ではなく市民全員が楽しんで参加できるもので、内容は、五種競技とか十種競技ってご存じかどうかわからないんですけども、例えば、100mを9秒で走ったら1,000点とか、10秒なら900点とかいうて時間によってポイントがついているんですよ。ただ、

私が言うてる橋本最新十種競技、最新二十種競技でも三十種競技でもええんですけども、言うているのは、ダッシュ10m走、用意ドンで10mで何秒かとか、立ち幅跳びとか、10cmの板の上を歩く何mとか、ポイントを決めておいてですよ。梅とか柿の種飛ばしとか、握力15kgでとめれるかどうかですよ。とか、ストップウォッチで15秒でとめれるかとか、そのポイントをつけておいてですよ。ドッジボールをどこまで投げれるかとか、いろいろ考えれば切りがないんですけども、そういうふうな楽しいイベントというか、それを大運動会というような形で言うておるんですが、この点について、教育部長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（土井裕美子君）教育部長。

○教育部長（阪口浩章君）市民大運動会ということで、議員のご提案なんですけども、市民が楽しんで参加できるというのが、今回そういうご提案に至った点かなと思います。今、市内幾つかの区自治会であったりとか、それから、合同で、または地域ぐるみで運動会が各地で行われております。それは本当にその地域の住民の皆さんがどういうふうな競技をするか自分たちで種目を考えて、企画されて、楽しんで交流されて、きずなを深められていってるのかなというふうに思います。

そこに、例えば、最近であれば、防災訓練をつけ加えて、防災運動会と名づけてされている運動会もあるかと思えます。そういう中でいけば、本当に今の市の考え方でもあります地域主体のまちづくりという点で、地域の皆さんが自分たちで楽しむための運動会を企画されているので、これがどんどん広まっていけばなというふうに考えております。

今回、市が主催するような大運動会とい

うようなことですが、教育委員会としてはそういうふうな形で、地域の皆さんが自分たちで考えて楽しめるような運動会が市全体に広がっていけばいいかなというふうに考えております。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）市全体に各地区ですよ。区とか地域がやっている運動会をいろんな種目を持ち寄って、そこを市全体でやったら、区だけじゃなしに、今確かにやっている区があるのは知っておるんですけども、私の地区は区ではもう今はやってなくて、橋本市で幾つかの区がされているんですが、どれぐらいの区がされているんですかね。区全部で109あるけども、わからないんですかね、運動会。聞きたいんですけど、後で教えてもらえますか。

○議長（土井裕美子君）それによろしいんですか。

○8番（杉本俊彦君）いや、聞きたいです。

○議長（土井裕美子君）質問で答弁を求めますか。

○8番（杉本俊彦君）それはそれで答弁求めます。

○議長（土井裕美子君）はい。答えられますか。区のほうでどのぐらいの区が運動会をやっているのかということの答弁ですね。

○議長（土井裕美子君）教育部長。

○教育部長（阪口浩章君）一応、私が行ったといいますか、中では、例えば、垂井区でありますとか、平野、山内は合同でされとったと思います。それから、河瀬なんかは防災運動会という形でされていたと思います。それから、直近では信太地区が、廃校になりました信太小学校を使いまして、そこで地域ぐるみの防災運動会をされておったというふうに記憶しております。私の知る限りで。

（「岸上」と呼ぶ者あり）

○教育部長(阪口浩章君)岸上も運動会をされております。私の知る限りでは、以上です。

○議長(土井裕美子君)8番 杉本さん。

○8番(杉本俊彦君)ということは、幾つかの地域ではしているけども、多くの地域ではしていないということですよね。百何ぼあるでしょう、区。だから、多くの地域でやっていないんで、市全体の活性化をやるんやったら、やっぱり1回まとめて楽しめる運動会を。私が今言うてるイベントは、毎年やるようなイベントではなくって、単年度なんです。単年度で、1回やってみようかという感じの勢いでやりませんかという提案なんです。だから、毎年やるかっていうような提案ではなくって、どうかやりたいということで今さしていただいとる。そういうことですよ。橋本市全体でやるっていうことのイメージ、あきませんか。出てきませんか。

イベントって必ず楽しくなるはずやし、やりたいと思えばできるイベントしか今、言っていないですよ。確かに、一度、市民大運動会をやってみて、もしですね、6万人が集まれば怖い。すごい運動会になるんですけど、でも、そういうことはあまり想像してなくて、だから、楽しいこと間違いないんですけども、大運動会というのはそういう意味で言うておりました。

続いて、紀の川音楽祭なんですけれども、紀の川の川の中に演奏台を設けて行われる音楽祭を想像してしまして、岸ではバーベキューをしながら楽しめるという。お金かからないでしょう。かからないと思います、そんなに、ゼロやないけど。ほんで、経済推進部長、こんな楽しいイベントをしたいと、部長なら必ず思っていると思うんですが、もっと部長やったらアイデアをお持ちでしょうし、もっと修飾していくでしょうし、い

かがでしょうか。

○議長(土井裕美子君)経済推進部長。

○経済推進部長(北岡慶久君)紀の川音楽祭についてお答えします。

夏場の野外イベントと想定されますが、紀の川は国土交通省管理の一级河川であり、河川内に構造物を設置することや催し事を実施するには、安全管理体制構築をはじめ法令に基づく占用許可が必要となります。特に、川の中への設備の設置は予算的にもかなり必要になるものと考えられます。檀上では、経済推進部が実施している事業についての説明はさせていただきませんが、夏場は紀の川橋本サマーボール等の開催時期でもあり、大規模イベントが本当に続いております。

先ほどお答えさせていただいたとおり、スクラップアンドビルドの観点や人員体制等の面からも、市が主体的に音楽祭を開催することは困難だと期待をしていただいて答弁を求められましたが、困難というふうにお答えさせていただきます。

○議長(土井裕美子君)8番 杉本さん。

○8番(杉本俊彦君)あまりいい返事がもらえませんが、イベントは楽しく取り組むことが鉄則ですよ。市が取り組んでいるさまざまなイベントですが、市民はもちろん、職員の皆さんも仕事とはいえ本当に楽しめているかどうかは疑問であります。答弁は結構ですが、このご時世、楽しむことを第一に考えること、私は最も大切だと思っています。仕事先、工場を今つくっておりますが、仕事先があれば人は集まりますし、楽しいことがあれば人は滞留します。その人たちは楽しいまちに来たら引っ越そうとは思いませんから、息子や孫の代まで暮らしてくれます。

次の質問に入ります。紀の川オールナイ

ト映画祭とは、読んで字のごとく川の中に巨大スクリーンを立てて、河原ではバーベキューなり、音対策としては車内でFMラジオに入ってくる音声を聞きながら見る映画です。どうですか、経済推進部長。アメリカではそんな大きなスクリーンを前に車の中で、あんな見えるようなものもありますし、何よりも橋本市で昔、紀の川祭には河原で映画があったのを覚えている方いらっしゃいませんか、やっと思ったの。理事か副市長ぐらいの年齢、こっちやったら石橋議員は覚えてはると言われてたんで。だから、紀の川祭のときも河原でスクリーン張って、映画はやっと思ったんです。そんな時代があったんです。

だから、皆さんは、私たちのような若い人間は、60は超えてますが、あまり覚えてないんですけれども、そういうのもできるんですよ。そんな難しいもんじゃないですからね。河原で、中へ入るのはあかんのやったら、石の上でもええんですけど。そうやって、だんだん楽しそうな感じになってきましたでしょう。

昔々、橋本市にはオールナイトでやるイベントがあったという話を聞いておるんですが、夜中の3時に友だちから集合の電話があったらどうしますか。迷惑だと思いますが、これが年に1回とか、5年に1回、10年に1回なら我慢できると思いませんか。気持ちが高ぶってきませんか、だんだん。オールナイトでやりたいんですが、答弁ください。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）紀の川オールナイト映画祭についてお答えします。

先ほどの紀の川音楽祭と同様に、紀の川の占用許可の課題とともに、河原へ安全に車両進入させることが難しいことや、オー

ルナイト開催となれば近隣住民の理解や青少年健全育成の課題など高いハードルがあります。また、先ほどもお答えしましたが、スクラップアンドビルドの観点、人員体制等や安全性確保の面からも、市が主体的にオールナイト映画祭を開催することは困難です。

ただ、先ほど24時間でのイベントというお話がありましたが、以前、市内各地でソフトボールが盛んな時期に、ソフトボールを愛好する皆さん方が主催して、本当に夜中の3時にちょっと来てくれるかっていうような催しが何度かあって、私も参加させていただいた記憶があります。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）あるのがわかりましたので、やっぱりオールナイトでもやる気になればできます。今年やるのは困難とは思いますが、いずれやってみたいと思いますと言ってほしいんです。「恋するフォーチュンクッキー」のあの取り組み覚えていますか。あれ、市民の提案を受けて部長が約1カ月という短期間で、今から言うたら市民協働によって大成功させたやつですけども、あのときの思い、熱い思い、すごい熱意というかエネルギーやったと思うんですが、その辺の気持ち的なもんはどうだったか、ちょっとお話ししていただけますか。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）5年ほど前だったと思います。当時、一市民であった杉本議員から提案がありました。私たち橋本市の職員に対して、あんたらはこんな楽しいことを企画する柔らかい頭を持ち合わせてないだろうというような一部挑発もありまして、私たち職員の中で、やっぱり楽しいイベントをしたいという思いが、ともに力を合わせて、本当に約1カ月という短期間の

間でさまざまな市民の方がかかわっていた  
だいて、総勢1,300人ぐらいでしたか、参加  
いただき、もちろん当時の市長、副市長、そ  
れから、当時の議会の皆さんにもご協力を  
いただき、本当に実施してよかったなとい  
うイベントです。でも、その事業には一切お  
金もかかりませんでしたし、職員の有志も  
市役所AKBというようなものを組織しな  
がら、本当に協力できたイベントではない  
かなというふうに思っています。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）今の議長が主になって  
一緒にやってくれてたんでできたようなも  
んですけれども、今朝見たら、あのフォー  
チュンクッキーね、やっぱり15万回以上は見  
てもらっています。すごい人が。平木市長も  
和歌山県議会議員、当時ね、その一般質問  
の冒頭で、橋本市はこんな取り組みをして  
いますって紹介していました。だから、楽し  
い取り組みには市長もほんまは取り組んで  
くれるんですよ。ですから、お金かかれへん  
だらね、お金かかれへんだら。やる気を出せ  
ば、お金がなくなっただって実現できるとい  
う証明ですし、紀の川の占用許可は、その気  
になれば市長ならできる。なおかつ、市民協働  
ならできる。できないことはない。はぐくむ  
条例初の市民協働のイベント、平木市長の  
もつとで、ええと思いませんか。

続いて、質問します。市民大駅伝というの  
は、1チーム男女混合で10人とか決め、運動  
公園の外周が約1.5kmということなんで、10  
周とか20周で行うということ。1周交代で  
回していきますんで、同じ場所を周回する  
わけでありまして。チームのメンバー、仲間や  
家族や応援団は、ブルーシートを引くなり  
して、花見のように周回コースに構えるわ  
けです、弁当を食べながら。それが応援する  
んで、必ず目の前通過するんで、通過するた

んびに、「しっかり走れ」と掛け声かけなが  
ら、走っとる人は必死なんですけど、ほかの  
人は弁当食べながら笑いながら。時には走  
者を見過ごしたりすることになります。必  
ず楽しめる駅伝になります。

当然ですが、市役所の各部では1チーム  
はエントリーしなければならないです。ど  
うですか、教育部長。教育委員会も1チーム  
出しましょうよ。出せる。出ない人は花見気  
分で応援に行けますし。こんな取り組みな  
ら実現できると思いませんか。ユニフォー  
ムをそろえて、背中には教育委員会と書い  
て、仲間意識が出て、後からみんな仕事がど  
んどんやりやすくなって、楽しくできる  
と思います。いかがでしょうか。

○議長（土井裕美子君）教育部長。

○教育部長（阪口浩章君）市民大駅伝とい  
うことでの質問やと思います。今、毎年、橋  
本マラソン、さっきの壇上での答弁でもあ  
りましたように開催してまして、その中  
では、やっぱり市民の皆さんが楽しんで参  
加してもらえる種目もございます。ファミ  
リー走で800mですかね、トラックを2周す  
るということで、お父さん、お母さん、子  
どもさんに、時にはおじいちゃん、おばあ  
ちゃんも入った中で楽しんでいただいて、走  
ることの喜び、みんなで一緒になってマラ  
ソン大会に参加してもらおうというような試  
みもしておりますし、また、ハーフなんか  
では、やっぱりタイムを求めてこられる参  
加者の方もおられますけども、中にはグ  
ループとか団体で、市役所チームも参加  
しているんですけども、仮装をして参加  
されたり、また、市の事業をPR、特定健  
診であったり、あと、消防のほうでは火  
の用心であったり、そういうふうな形  
でハーフマラソンにも参加して  
いただいております。

そういう中でいけば、今ある市民が楽し

んでやっていただけるということであれば、この橋本マラソンを、実行委員会が主催やっていますんで、実行委員とともにいろいろ考えながら、市民の皆さんが楽しんで参加できる、また市外からも喜んで来ていただけるようなマラソン大会になればなということを考えてますんで、新たな市民大駅伝ということについては難しいかなというふうに考えております。

○議長（土井裕美子君） 8番 杉本さん。

○8番（杉本俊彦君）私もこう書いていますけれども、楽しめるやつですんで、例えば、サマーボールの午前中に紀の川音楽祭をやって、夕方からサマーボールで花火打ち上げて、その日の晩、オールナイト映画祭という形であれば、いっぺんに全部できます。みんな帰らんとええし、紀の川で寝てもええしっていうようなすごいことを、あんまり余計なことをいっぱい考えたら、あれもあかん、これもあかんてなるんで、今ええことだけを考えていただいて、楽しいことだけを考えていただけて頭の中で考えたら、やりたいなってだんだんなってくると思うんですよ。

今まで何度かスクラップアンドビルドという答弁ございましたんですけども、市全体のイベントをいい意味で、もう一度見直しを行って、市民に知ってもらえ、社会人以上の年齢の方が喜んで、22歳からぐらいが。もちろん子どもも来てもらってもいいんですけども、ていうか、子どもも主になるとは思うんですけども、社会人以上の年齢の方が喜んで参加していただけるようなイベント、そんなイベントを再考してもらえたらいいなというふうに。ボランティアも含めて市全体で見直すというのはいいい機会だと思いますが、いかがでしょうか。

市民協働イベント制作実行委員会、こん

な感じのやつを立ち上げて、推し進めていただけないでしょうか。私も実行委員のメンバーにしてほしいです。総合政策部長、毎年続けるイベントと考えるのではなく、単年度でやる活性化イベントです。いかがですか。聞いてよかったら、いい答弁をお願いします。

○議長（土井裕美子君） 総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）市民協働という視点でのご提案をいただいたわけなんですけども、先ほどはぐくむ条例の話が出てきましたんで、少し整理しながらお話をさせていただきますと思います。

このはぐくむ条例をそもそもつくるスローガンというのが、市民と行政の協働で元気なまちづくりという、こういうことをスローガンでやってきました。そして、また平成30年度から始まっています長期総合計画、これの将来像、これについては、「人輝き、あたたかさ湧き出る、みんなで創造する元気なまち橋本」ということで、いずれも市民協働というのと元気というのがキーワードになっております。そういう意味からすると、今回の議員の一般質問というのは、本市の政策的な方向に合致しているのかなというふうには考えます。

かねてより、平木市長になってから、橋本カフェミーティングなんかでも、イベントの開催について、地域が元気づくようなイベントについてもご提案もいただいていますし、市民満足度調査においても幾つかのご提案もいただいているところでございます。

ところが、一方で、はぐくむ条例の前文にあるんですけども、これは主語は私たちということになるんですけども、自ら考え、自ら創造し、自らが責任を持って主体的に行動し続ける必要があります、自治と協働のまち

づくりを進めていきますというフレーズがあるわけでございます。議員はイベントに並々ならぬ強い思いがおありやというふうに感じていますが、先ほどのはぐくむ条例の前文のとおり、議員自身が主体となって実行委員会を立ち上げて、ご提案をしていただくことというのは十分できると思いますので、市が主体ということではなくて、その一例としては、きのうもちよっと13番議員よりご紹介あったんですけども、もとの紀の国やっちゃん、今のデバ祭ですね。ああいう祭りっていうのは、本当に市民主導で企画をして、行政からの補助金もなく、参加者の会費により運営しているというそういうイベント、それで2,000人を超えるような、こういう来場者。これは単発ではないんですけども、一つの伝統としてこういうことも企画をしていただいている、そういうような状況であります。

答えとしましては、冒頭で経済推進部長より答弁させていただいたとおり、大小合わせて市は300ほどのイベントを抱えていると。その中でもやっぱりスクラップアンドビルドというの考えながら、毎年、実行委員会とともに課題を捉まえて、そしてまた次に反映していくという、そういう努力もしながら、現在、かなりマンパワーもそこにつぎ込みながら業務をやっているということですので、同じように先ほど壇上でお答えさせていただいたとおり、新たなイベントをなかなか市主導で企画して運営するのは、行政としては非常に困難でございますので、ぜひとも、市民主導でご提案いただければ、それに対して検討あるいは支援することはできるのかなというふうに思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○8番（杉本俊彦君）以上です。

○議長（土井裕美子君）もう終わりによろしいですか。

○8番（杉本俊彦君）はい。

○議長（土井裕美子君）8番 杉本さんの一般質問は終わりました。